

☆「鮎の人工ふ化・飼育体験」の授業におじゃましました！

＜わが村団体名：厚沢部町河川資源保護振興会＞



9月14日(木)に厚沢部小学校で「鮎の人工ふ化・飼育体験」の出前授業がありました。厚沢部町河川資源保護振興会の坂本さんを講師に、厚沢部小学校4年生の生徒21名が真剣にお話を聞き、人工ふ化を体験しました。

厚沢部川は鮎が多くいることで全国的に有名な川です。

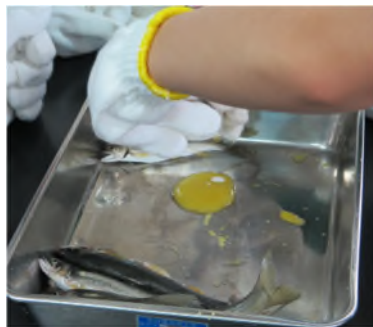
鮎は生まれてから5日くらいで海にたどり着かないと死んでしまうので、海に近い下流で産卵します。

北海道では8月下旬から10月にかけて鮎の産卵が行われます。

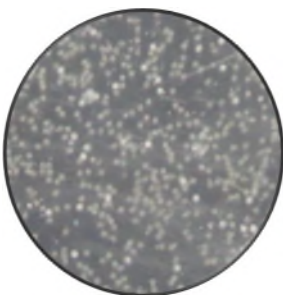
鮎は秋に生まれ、春に川を上って秋に産卵して死ぬので、1年しか生きられないことから『年魚』とも言われるそうです。

人工ふ化の方法（1尾ごとに重さ、長さなどを計測して記録する）

- メスのお腹から卵を搾る。
- オスのお腹から精子を搾る。
- 卵と精子をよく混ぜて水を入れる（受精）。
- 受精卵をシュロの繊維に付着させる（学校では水槽に入れる）。



↓受精卵の大きさは1mmくらいでとても小さいです。



20°Cで10日くらいでふ化がはじまるので、よく観察し、ふ化したら速やかに厚沢部町河川資源保護振興会に連絡をして厚沢部川に放流してもらいます。育った鮎が厚沢部川に戻ってくるのが楽しみです！

■ ■ ■ 受精卵の管理・飼育 ■ ■ ■

1. 日の当たる場所、高温になる場所はさける。  
・水温20°C以下の場所。（水槽に水温計）  
・エアープンプで空気を送る。
  2. 水そうの水は、毎日とりかえる。  
・水道水を1日くみ置きしたものか、カルキ抜きを入れたものを使用する。  
・3分の2ぐらい取りかえる。
  3. 毎日、お昼ごろの水そうの水温を測定し、記録する。（毎日の水温をたして、20°C前後になれば孵化が始まる）
  4. 孵化したアユをよく観察する。
  5. 遅くても孵化した次の日には放流する。
- 上手いくくと来年の春、4年生の皆さんが育てたアユが、厚沢部川に戻ってきますよ！